

プロジェクトコーナー

この3月、医療、環境、教育に関する3件のプロジェクトが終了しました。うち1件はフォローアップのため小規模に、1件は対象地域を拡大して継続実施の予定です。

助成金を受けた場合はもちろん自己資金によるプロジェクトも、目的遂行のための現地訪問とモニターが欠かせません。爆弾テロにより、昨年12月以降事業地域の治安に対する懸念が増大し、当会スタッフの現地滞在の大きな障害になっています。

拡大

保健ボランティアの育成と母子保健プロジェクト

2002年はボランティア貯金、2003年はファイバーリサイクルネットワーク（FRN）の支援、さらに2004年はHANDS自己資金（中田資金）とつないできたイスラム系住民の村における医療や衛生改善の事業。戦闘に巻き込まれた避難民の臨時巡回診療等に資金の一部を充当しながら、村の保健ボランティア育成や家庭訪問による衛生改善を着実に進めてきました。

本年度はこの実績に基づき、FIDRの助成を受けてより対象を広げて実施する予定です。

日本3.2人、フィリピン全体29人、ムスリム・ミンダナオ自治区55.1人。千人に対する1歳未満乳児死亡率です（世界人口白書2004ほか）。PIHSパササンバオ総合医療サービスと協力してプロジェクトを進めていく5地域については統計もなく、状況がつかめていません。コミュニティ内で活躍する保健ボランティアを各地域4名、計20名育成し、彼女たちによる家庭訪問と栄養指導によってフィリピン平均に近づけたいと考えます。コミュニティ内で衛生セミナーを開催し、手洗いの奨励やトイレの設置をするだけでも、病気の予防・啓発になります。また対象地域には、イスラム系ピラーン民族も居住しています。このささやかなプロジェクトが先住民同士の融和、ひいてはミンダナオの平和へとつながることを期待しています。

【実施地域】カニパアン（スルタンクダラト州）、タンドリニ、プアゴ、トウヤン（以上サランガニ州）、ティナガカン（ゼネラルサントス市）

【対象者】女性と乳幼児1000名、男性も含むと約3000名

終了

山岳部先住民族コミュニティにおける森林再生とアグロフォレストリ・モデル事業 （財）横浜市国際交流協会/YOKE 助成事業が終了しました



種まきから約半年でフラミンジャは灌木となり、土留めの役割を果たす。葉は刈り取って土にすきこみ、地力回復を図る。

水源涵養林育成：5ヘクタールにフィリピンマホガニー4,150本を植栽

傾斜地農法によるアグロフォレストリ：15ヘクタールにフィリピンマホガニーとバナナ、マンゴーなどの果樹苗4,020本を植栽

技術研修とワークショップ：傾斜地農法の技術、先祖伝来の土地での経済的自立の理念と方法の研修
（参加住民は各回30-40名）



ピーナッツ畑の芽の脇にバナナを植える住民。この後植える果樹苗に日陰を提供する母の木となる。

（カندان村）